

報 文

親の性役割態度が養育態度および幼児の社会的行動に与える影響

坂 口 由紀子*¹ 橋 本 紀 子*²Effects of Parents' Attitudes toward Gender Roles on Child-Rearing
and Children's Social BehaviorsYukiko SAKAGUCHI*¹ and Noriko HASHIMOTO*²

[Objective] To clarify the effects of parents' attitudes toward gender roles on child-rearing and children's social behaviors.

[Methods] An anonymous self-administered questionnaire was conducted from May to June 2008 on the parents of 977 children, ranging in age from 3 to 6 years old. The questionnaire was comprised of existing scales for "parents' attitudes toward gender roles", "parents' attitudes toward child-rearing" and "children's social behaviors".

[Results] The objects of this study were parents of 315 children who replied to all the question. The mothers of 206 children (58.7%) were unemployed, and the mothers of 100 children (28.5%) worked part time, the mothers of 21 children (6.0%) worked full time. With egalitarian fathers, responsive attitudes were strong, and there were no differences in children's social behaviors. With traditional fathers, responsive attitudes were weak, and there were no differences in children's social behaviors. With egalitarian mothers, controlling attitudes were significantly stronger, harmonious child-rearing was common, and there were few problematic behaviors with the children. With traditional mothers, controlling attitudes were weak, they were more likely to be permissive parents, and problematic behaviors with children were more common. Furthermore, in families with a traditional mother, fathers' responsive attitudes towards girls were significantly weaker, but girls had better developed cooperative skills than boys. In families with an egalitarian mother, father's controlling attitudes towards boys were significantly stronger, but there were no significant differences in the children's social behaviors.

[Discussion] The present results suggested that mothers' attitudes toward gender roles directly affected not only their attitudes about child-rearing, but also their children's social behaviors and may indirectly affect attitudinal gender bias in paternal nurturing. Maternal egalitarian attitudes were suggested to have a strong effect on the development of social behavior in children.

I. 序

1. 研究動機

近年、男女の性役割が以前よりも平等志向性になりつつあるといわれており、内閣府が2007年に実施した世論調査でも、家庭生活における男女の地位が平等であると答えたものは42%と増加傾向にある¹⁾。幼少期からの教育の中においても、男女同等の教育を受けており、子ども達の中では、男女平等の考えや行動は、ごく当たり

り前のこととなっている。しかし、日本の社会には、「女の子は女の子らしく」「男の子は男の子らしく」という性差を意識した子育て文化も残っている。このような親の性役割態度と養育態度に関する先行研究では、0～3歳児をもつ母親の伝統的性役割態度が、子どもをたたく・つねるといった行動や、くよくよ考えこむなどというような否定的養育行動に対して有意な影響を示すことが明らかとなり、「男は仕事、女は家庭で家事・育児を担当するのが望ましい」とした伝統的性役割態度が強い

*¹ 保健医療学部看護学科, 埼玉医科大学: School of Nursing, Faculty of Health and Medical Care, Saitama Medical University

*² 教育学研究室, 女子栄養大学: Laboratory of Education, Kagawa Nutrition University

母親の場合、自身の役割意識によって育児に困難をきたしてしまう可能性が示唆された²⁾。また、伝統的性役割観を内面化している親ほど「女らしさ」「男らしさ」に基づくしつけを行う傾向があることが示された³⁾。これらのことから、母親の性役割態度が伝統主義であると、「女の子らしさ」「男の子らしさ」というようなジェンダーに基づいた養育態度となり、そのことが否定的養育行動につながることを推測できる。

親の養育態度と子どもの社会的行動との関係についてはこれまで数多くの研究がなされており、親の養育態度のパターンが子どもの社会的行動や子どもの精神状態に関連していることが明らかになっている^{4, 5)}。幼児期は親から養育を受ける中で、親の行動をモデリングしたり、幼児の行動に対する親からのフィードバックを通したりして社会的行動を学習していくという側面が強いと考えられ^{6, 7)}、幼児をもつ親の養育態度が子どもの社会的行動の発達に及ぼす影響は大きいと推測される。しかしながら、父親の性役割態度と養育態度の関連、親の性役割態度と幼児の社会的行動の関連について調べた研究は殆どない。そこで、本研究では親の性役割態度が幼児の社会的行動の発達にも影響を与えるのか、性役割態度と密接に関連する子どもの性別によって親の養育態度が異なるのか、性別による養育態度の違いが子どもの社会的行動に影響を与えるのかを明らかにする。

2. 研究目的

次の1)～4)について明らかにする。

- 1) 父親と母親の性役割態度は、養育態度に関連しているのか
- 2) 親の性役割態度は、子どもの社会的行動に関連しているのか
- 3) 性役割態度によって子どもの性別と養育態度の関連に差が生じるのか
- 4) 性別による養育態度の違いは、子どもの社会的行動に関連しているのか

II. 研究方法

1. 調査対象

首都圏にある保育所および幼稚園のうち、研究の趣旨と方法を説明し、子ども課長・保育所長の方の了承を得られた公立保育所3か所と、園長の了承を得られた私立幼稚園6か所を利用している3～6歳（年少～年長）の幼児977名の親を対象に自記式質問紙調査を実施した。

2. 調査期間

平成20年5月～6月

3. 調査項目

1) 子どもの社会的行動、2) 親の養育態度、3) 親の性役割態度は両親に、家族の基本属性は母親のみに調査

表1. 子どもの社会的行動得点の平均値と標準偏差

		項 目	平均値（標準偏差）	
			父（N=351）	母（N=351）
社会的 スキル 領域	主張 スキル	自分から友だちとの会話をしかける	3.56 (1.20)	3.85 (0.97)
		友だちをいろいろな活動に誘う	3.07 (1.09)	3.30 (1.10)
		不公平なルールには適切なやり方で疑問を唱える	2.72 (1.03)	2.88 (1.02)
		簡単に友だちをつくる	3.28 (1.20)	3.55 (1.18)
		不公平な扱いを受けたと感じたら、親にそのことをうまく話す	2.72 (1.05)	2.85 (1.12)
	自己 統制 スキル	友だちとのいざこざ場面で、自分の気持ちをコントロールする	3.05 (0.96)	3.21 (0.90)
		友だちと対立したときには、自分の考えを変えて折り合いをつける	2.61 (0.92)	2.74 (0.89)
		批判されても、気分を害さないで気持ちよくそれを受ける	2.48 (0.78)	2.47 (0.86)
	協 調 スキ ル	友だちから嫌なことを言われても、適切に対応する	2.62 (0.89)	2.62 (0.90)
		言われなくても親の手伝いをする	3.00 (1.04)	3.26 (1.06)
問 題 行 動 領 域	多 動 注 意 行 動	自分から進んで友だちの手伝いをする	3.30 (0.97)	3.60 (0.97)
		家にある遊具や絵本などを片づける	3.15 (0.99)	3.47 (0.97)
		社会的スキル領域合計得点平均点（標準偏差）	35.57 (6.71)	37.80 (6.72)
	思 引 つ 込 み 行 動	不注意である	2.62 (0.99)	2.48 (1.04)
		注意散漫である	2.61 (1.02)	2.46 (1.09)
		そわそわしたり、落ち着きがない（多動である）	2.27 (1.18)	1.87 (1.11)
		きまりや指示をまもらない	2.65 (0.77)	2.48 (0.85)
	攻 撃 行 動	さびしそうにしている	1.67 (0.80)	1.60 (0.77)
		友だちとの遊びに参加しない	1.79 (0.91)	1.67 (0.86)
		他の子どもたちと一緒にいるとき不安そうである	1.55 (0.77)	1.42 (0.77)
		ひとり遊びをする	3.46 (0.96)	3.63 (0.96)
	問 題 行 動 領 域 合 計	悲しそうであったり、ふさぎこんだりする	2.19 (1.00)	1.91 (0.84)
		他の子どもがしている遊びや活動のじゃまをする	1.88 (0.88)	1.82 (0.84)
		人や物に攻撃的である	2.11 (0.99)	1.88 (0.88)
		他の子どもと口論する	2.04 (0.93)	2.21 (0.93)
		かんしゃくもちである	2.43 (1.12)	2.34 (1.21)
		問題行動領域合計得点平均点（標準偏差）	29.27 (6.55)	27.77 (6.52)

した。

1) 子どもの社会的行動

幼児の社会的行動における対人技術の発達状況を客観的に測定するため、中台ら^{8,9)}が開発した家庭用の「幼児の社会的スキル尺度」25項目を使用した(表1)。尺度は、社会的スキル領域、問題行動領域の2つの領域から構成されており、「非常によくみられる」(5点)～「まったくみられない」(1点)までの5件法とした。社会的スキル領域は、「主張スキル(25点)」「自己統制スキル(20点)」「協調スキル(15点)」の3つの因子から成り、総得点は60点満点となる。問題行動領域は、「不注意・多動行動(20点)」「引っ込み思案行動(25点)」「攻撃行動(20点)」の3つの因子から成り、総得点は65点満点となる。

2) 親の養育態度

子どもに対する親の日常的なコミュニケーション状況を測定するため、中道ら⁴⁾が開発した「親の養育態度尺度」16項目のうち、内容が類似する1項目を削除して使用した(表2)。尺度は、「応答性」と「統制」の2つの次元から構成されており、「ぴったりあてはまる」(4点)～「全くあてはまらない」(1点)までの4件法とした。応答性は「子どもがひとりで遊んでいて、退屈そうだなと思ったとき、加わって一緒に遊ぶ」など8項目で32点、

統制は「買い物に行って玩具を買う予定が無い時に、子どもが玩具を欲しいと言って売り場から動かなくても、玩具は買わない」など7項目で28点満点となる。

3) 親の性役割態度

平等主義または伝統主義に対する志向性のレベルを客観的に測定するため、鈴木¹⁰⁻¹²⁾が開発した「平等主義的性役割態度スケール短縮版」15項目のうち、内容が類似する1項目を削除し、男性を主語とした項目を6項目追加して使用した(表3)。得点が高いほど、性役割に対して平等主義であり、低いほど伝統主義であると判定し、「全くその通りだと思う」(5点)～「全然そう思わない」(1点)までの5件法で100点満点とした。

4) 家族の基本属性

両親および子どもの年齢、家族構成、両親の就労状況、住居環境、子どもの入園時年齢について質問した。

4. データの収集方法

調査協力依頼書、質問紙、返信用封筒の入った封筒の配布と説明は保育士および幼稚園教諭が行い、各協力施設の希望により留め置き法および郵送法にて回収した。

5. データの分析方法

統計解析にはSPSS(15.0J)を使用し、母比率の差の

表2. 親の養育態度得点の平均値と標準偏差

	項 目	平均値 (標準偏差)	
		父 (N=351)	母 (N=351)
応答性	子どもがひとりで遊んでいて、退屈そうだなと思った時、加わって一緒に遊ぶ	2.93 (0.63)	2.84 (0.62)
	どこかに出かけて、子どもが疲れていると感じた時、休んだり、子どもを抱っこする	3.19 (0.67)	3.31 (0.64)
	子どもを抱きしめたり、やさしい言葉をかけて愛情を示している	3.23 (0.67)	3.46 (0.60)
	子どもがイライラしていると思った時、「どうしたの」と聞いてみる	3.14 (0.62)	3.42 (0.58)
	あなたが忙しい時、子どもが遊びたがっていても、遊ぶのを後回しにしてしまう*	2.07 (0.70)	1.89 (0.65)
	子どもが間違った行動をした時、どうしてその行動をとったのか理由を聞きどうしたらよかったのかを話しあう	2.98 (0.65)	3.22 (0.64)
	あなたが家にいる時、積極的に子どもと一緒に遊ぶ時間を持っている	2.84 (0.70)	2.68 (0.68)
	家族で遊びに行く時、子どもの行きたいところを優先する	3.08 (0.68)	3.22 (0.64)
応答性合計得点平均値 (標準偏差)		23.47 (3.26)	24.04 (2.70)
統制	買い物に行って玩具を買う予定が無い時に、子どもが玩具を欲しいと言って売り場から動かなくても、玩具は買わない	3.12 (0.83)	3.34 (0.72)
	子どもが自分のやるべきことをやらない時、「やりなさい」と言う	3.47 (0.63)	3.56 (0.58)
	子どもが友達と遊んでいて、友達が使っている玩具を無理やり取ってしまった時、それを返させる	3.57 (0.57)	3.55 (0.59)
	子どもが寝る時間になっても、遊んでいて寝ない時、そのままにしておく*	3.23 (0.81)	3.48 (0.70)
	子どもがあなたに対して、悪い言葉遣い(「バカ」、「アホ」など)をしたとしても気にしない*	3.50 (0.77)	3.73 (0.58)
	図書館や映画館など静かにしなければならない場所では、子どもを静かにさせる	3.66 (0.59)	3.76 (0.53)
	子どもがあなたと決めた約束を守らない時、その約束をもう一度教える	3.47 (0.62)	3.71 (0.50)
統制合計得点平均値 (標準偏差)		24.02 (2.70)	25.12 (2.15)

* は得点を逆転する項目：4点→1点、3点→2点、2点→3点、1点→4点

表 3. 親の性役割態度得点の平均値と標準偏差

No.	項 目	平均値 (標準偏差)	
		父 (N=351)	母 (N=351)
1	女性が社会的地位や賃金の高い職業を持つと結婚するのが難しくなるからそういう職業を持たないほうがよい*	4.10 (0.97)	4.30 (0.88)
2	結婚生活の重要事項は夫が決めるべきである*	3.56 (1.14)	3.66 (1.19)
3	主婦が働くとき夫をないがしろにしがちで、夫婦関係にひびがはいりやすい*	3.75 (0.96)	3.89 (1.00)
4	女性の居るべき場所は家庭であり、男性の居るべき場所は職場である*	3.62 (1.10)	3.85 (1.11)
5	主婦が仕事をすると、家庭の負担が重くなるのでよくない*	3.49 (1.00)	3.52 (1.06)
6	結婚後、妻は必ずしも夫の姓を名乗る必要はなく、旧姓で通してもよい	2.72 (1.11)	3.00 (1.11)
7	家事は男女の共同作業となるべきである	3.35 (1.04)	3.79 (0.98)
8	子育ては女性にとって一番大切なキャリアである*	2.46 (0.93)	2.36 (1.02)
9	男の子は男らしく、女の子は女らしく育てることが非常に大切である*	2.60 (1.04)	3.07 (1.07)
10	娘は将来主婦に、息子は職業人になることを想定して育てるべきである*	3.60 (0.98)	3.95 (0.98)
11	女性は家事や育児をしなければならないから、フルタイムよりパートタイムで働いたほうがよい*	3.09 (1.02)	3.22 (1.13)
12	女性の人生において、妻であり母であることも、仕事をすることも同じくらい重要である	3.41 (1.05)	3.75 (0.99)
13	女性は子どもが生まれても、仕事を続けたほうがよい	2.89 (0.82)	3.06 (0.78)
14	経済的に不自由でなければ、女性は働かなくてもよい*	2.78 (1.03)	3.03 (1.00)
15	男性は一家の大黒柱なので、家事育児を平等に分担させるべきではない*	3.51 (0.97)	3.71 (1.03)
16	男の子でも女の子でも家事ができるように育てるべきである	3.97 (0.84)	4.43 (0.65)
17	男性は結婚したら一切の経済的責任を負うべきである*	2.48 (1.05)	3.11 (1.07)
18	妻が専業主婦であっても、夫は育児休暇をとるべきである	2.82 (1.06)	2.95 (1.19)
19	共働き家庭の場合、子どもの健診は母親が連れて行くべきである*	3.22 (0.96)	3.54 (1.01)
20	経済的に余裕があれば、父親が専業主夫になってもよい	3.15 (1.12)	3.32 (1.10)
合計得点平均値 (標準偏差)		64.58 (9.95)	69.49 (9.85)

* は得点を逆転する項目：5点→1点, 4点→2点, 3点→3点, 2点→4点, 1点→5点

検定には χ^2 検定, 平均の比較についてはt検定, 相関についてはSpearmanの順位相関係数を求めて検定した。それぞれ5%を有意水準とした。一般的に相関係数が0～±0.2は相関関係が殆ど無く, ±0.2～±0.4は弱いながら相関関係があると解釈されるため, 本研究においても±0.2～±0.4を弱い相関関係, ±0.4以上を相関関係があると判断した。

既存の尺度を一部変更して使用した「親の性役割態度」の信頼性係数を算出したところ, 「平等主義的性役割態度スケール短縮版」15項目のうち, 内容が類似する1項目を削除した14項目は, 父親 $\alpha=0.657$, 母親 $\alpha=0.625$ であった。6項目を追加した20項目では, 父親 $\alpha=0.641$, 母親 $\alpha=0.606$ と, 信頼係数に大きな差は見られず, 0.6以上を保っていた為, 内的整合性はほぼ満たされていると判断した。妥当性については, (1) 男性よりも女性の方が, (2) 無職女性よりも有職女性の方が得点は高く, 先行研究¹⁰⁾から予測される方向であったことから, 妥当性があると判断した。

6. 倫理的配慮

質問紙は無記名とし, 研究の依頼書を用いて研究の趣旨及び研究の協力は自由意志であることについて明記し

て配布し, 質問紙の返信により研究の同意を得たと判断した。なお, 本研究は女子栄養大学の医学倫理委員会の承認を受けた。

7. 用語の定義

1) 社会的スキル領域

「円滑な人間関係を営むために必要な行動という側面の領域」と定義される^{8, 9)}。

2) 問題行動領域

「人間関係を阻害する行動という側面の領域」と定義される^{8, 9)}。

3) 応答性

「子どもの意図・欲求に気づき, 愛情のある言語や身体的表現を用いて, 子どもの意図をできる限り充足させようとする行動」と定義される⁴⁾。

4) 統制

「子どもの意図とは関係なく, 親が子どもにとって良いと思う行動を決定し, それを強制する行動」と定義される⁴⁾。

5) 性役割態度

「性役割に対して一貫して好意的もしくは非好意的に反応する学習した傾向」と定義され, 結婚・男女観, 教

育観、職業観の3つの領域から成る¹⁰⁻¹²⁾。

III. 結果

1. 対象

父親の回収率は47.4% (463名)、母親55.2% (539名)であり、そのうち両親がそろって「子どもの社会的行動」「親の養育態度」「親の性役割態度」の全項目に回答している351件を分析対象とした。分析対象の平均年齢は、父親 37.1 ± 6.0 歳、母親 34.6 ± 4.6 歳、対象児 4.5 ± 0.8 歳であった。母親の就労形態は、無職206名(58.7%)、パート就労100名(28.5%)、常勤21名(6.0%)、その他24名(6.8%)であった。261世帯(90.6%)が核家族であり、子どもの人数は、2人が214世帯(61.0%)、3人が74世帯(21.1%)、1人が52世帯(14.8%)、4人が8世帯(2.3%)、5人が3世帯(0.9%)の順であった。

2. 分析結果

親の性役割態度は、合計得点を第1および第3四分位値にて区分し、25パーセンタイル値以下を伝統主義と

し、75パーセンタイル値以上を平等主義とした。養育態度は、統制得点と応答性得点を平均値で区分し、統制得点と応答性得点が共に平均値より高い群を調和的とし、統制得点が平均値より高く、応答性得点が平均値より低い群を統制的とし、統制得点が平均値より低く、応答性得点が平均値より高い群を許容的とし、統制得点と応答性得点が共に平均値より低い群を放任的とした(表4)。

1) 親の性役割態度と養育態度の関係

親の性役割態度と養育態度に相関関係はなかった。

父親の性役割態度により養育タイプに有意差はなかったが、養育態度の構成因子に有意な差が認められた(表5)。平等主義の父親は、伝統主義の父親に比べて応答性得点が有意に高かった($p < 0.05$)。

母親の性役割態度により養育態度の構成因子および養育タイプに有意な差が認められた(表6, 7)。平等主義の母親は、伝統主義の母親に比べて統制得点が有意に高かった($p < 0.05$)。平等主義の母親は調和的養育タイプが一番多く、伝統主義の母親は放任的養育タイプが一番多かった($p < 0.05$)。

2) 親の性役割態度と子どもの社会的行動の関係

親の性役割態度と子どもの社会的行動に相関関係はなかった。父親の性役割態度によって子どもの社会的行動に有意差はなかったが、母親の性役割態度によって子どもの問題行動に有意な差が認められた(表8)。母親が平等主義の場合、伝統主義の母親に比べて子どもの引っ込み思案行動得点を有意に低く報告していた($p < 0.05$)。

表4. 養育タイプの分類

		応答性	
		高い	低い
統制	高い	調和的	統制的
	低い	許容的	放任的

表5. 父親の性役割態度による養育態度の比較

	父親の養育態度					
	統制			応答性		
	N	Mean	SD	N	Mean	SD
伝統主義	99	23.8	2.6	99	22.9	3.1
平等主義	84	24.4	2.9	84	23.9	3.3

* $p < 0.05$

表6. 母親の性役割態度による養育態度の比較

	母親の養育態度					
	統制			応答性		
	N	Mean	SD	N	Mean	SD
伝統主義	94	24.8	2.1	94	23.9	2.6
平等主義	86	25.6	2.1	86	24.2	2.9

* $p < 0.05$

表7. 母親の性役割態度と母親の養育タイプのクロス

母親の性役割態度	母親の養育タイプ				
	放任的 (%)	統制的 (%)	許容的 (%)	調和的 (%)	全体 (%)
伝統主義	38 (36.2)	23 (21.9)	25 (23.8)	19 (18.1)	105 (100.0)
平等主義	24 (27.9)	20 (23.3)	12 (14.0)	30 (34.9)	86 (100.0)
全 体	62 (32.5)	43 (22.5)	37 (19.4)	49 (25.7)	191 (100.0)

χ^2 値: 8.60, $p = 0.035$ *

表8. 母親の性役割態度による子どもの問題行動の比較

	母親報告「問題行動領域」								
	不注意多動行動			引っ込み思案行動			攻撃行動		
	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD
伝統主義	94	9.5	3.4	94	10.7	2.7	94	8.5	3.0
平等主義	86	8.9	3.1	86	9.8	2.4	86	7.9	2.7

* $p < 0.05$

表 9. 母親の性役割態度別, 子どもの性別による父親の養育態度の比較

母親の性役割態度		父親の養育態度					
		統 制			応 答 性		
		N	Mean	SD	N	Mean	SD
伝統主義	男児	53	23.8	3.2	53	24.0	2.9
	女児	37	24.2	2.5	37	22.4	4.0
平等主義	男児	38	25.3	2.5	38	22.7	3.4
	女児	46	23.3	2.8	46	23.7	3.2

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$

表10. 母親の性役割態度別, 子どもの性別による父親報告「子ども社会的スキル領域」の比較

母親の性役割態度		父親報告「社会的スキル領域」								
		主張スキル			自己統制スキル			協調スキル		
		N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD
伝統主義	男児	58	15.5	4.0	58	11.0	2.7	58	9.1	1.7
	女児	42	15.4	3.3	42	11.2	2.3	42	10.0	2.2
平等主義	男児	38	15.5	4.0	38	10.7	1.9	38	9.1	1.9
	女児	46	14.9	3.4	46	10.3	2.8	46	9.7	2.5

* $p < 0.05$

表11. 母親の性役割態度別, 子どもの性別による父親報告「子ども問題行動領域」の比較

母親の性役割態度		父親報告「問題行動領域」								
		不注意多動行動			引っ込み思案行動			攻撃行動		
		N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD
伝統主義	男児	58	10.7	3.0	58	10.6	3.0	58	8.9	2.3
	女児	42	9.9	2.8	42	10.7	1.9	42	8.3	2.5
平等主義	男児	38	10.4	3.4	38	10.9	2.6	38	8.2	3.0
	女児	46	9.3	2.8	46	10.7	2.5	46	8.4	2.8

n.p.

表 12. 母親の性役割態度と母親の就労状況のクロス

	常勤 (%)	パート (%)	無職 (%)	その他 (%)	全体 (%)
伝統主義	3 (2.9)	24 (23.3)	70 (68.0)	6 (5.8)	103 (100.0)
平等主義	10 (11.8)	30 (35.3)	42 (49.4)	3 (3.5)	85 (100.0)
全 体	13 (6.9)	54 (28.7)	112 (59.6)	9 (4.8)	188 (100.0)

 χ^2 値 : 10.81, $p < 0.013$ *

3) 親の性役割態度別, 子どもの性別と養育態度の関係
全体および父親の性役割態度別では, 子どもの性別により養育態度に有意差はなかった。母親の性役割態度別では, 子どもの性別により父親の養育態度の構成因子に有意な差が認められた (表 9)。

母親が伝統主義の場合, 女児の父親は, 男児の父親に比べて応答性得点が有意に低かった ($p < 0.05$)。

母親が平等主義の場合, 男児の父親は, 女児の父親に比べて統制得点が有意に高かった ($p < 0.01$)。

4) 親の性役割態度別, 子どもの性別と社会的行動の関係

3) において有意差の認められた母親の性役割態度別

で, 子どもの性別により父親報告の社会的行動を比較した結果, 母親が伝統主義の場合, 社会的スキル領域において男女で有意な差が認められた (表 10, 11)。

子どもの問題行動領域に男女差はなかったが, 母親が伝統主義の場合, 女児は男児に比べて協調スキル得点が有意に高かった ($p < 0.05$)。

5) 親の性役割態度と家族構成の関係

性役割態度により家族構成を比較した結果, 母親の就労状況に有意差が認められ (表 12), 平等主義の母親は, 伝統主義の母親に比べて有職者の割合が有意に多かった ($p < 0.05$)。

IV. 考察

1. 親の性役割態度と養育態度の関係

親の性役割態度と養育態度に相関関係はなかったが、伝統主義の父親よりも平等主義の父親の方が、子どもの意図をできる限り充足させようとする応答的態度が強く、伝統主義の母親よりも平等主義の母親の方が、子どもにとって良いと思う行動を強制する統制的態度が強い傾向にあり、父親と母親では性役割態度と養育態度の関係が異なっていた。平等主義の父親は、伝統主義の父親よりも子どもと話す機会が多く、子どもの意図をくみ取ろうと関わることで、子どもに対しても平等に関わっている様子が推察できる。一方、平等主義の母親の場合は統制的態度が強いことから、平等主義の父親とは異なる背景要因があると考えられる。推測にすぎないが、母親の就労状況のM字曲線¹³⁾に表されるような未だに幼少期の子どもをもつ母親に対して伝統的役割を推し進める現代社会において、平等主義の母親は、自らの平等主義的価値観を子どもに対し統制的に要求していることが考えられる。

また、性役割態度によって養育タイプの比率を検定した結果、伝統主義の母親は応答性得点と統制得点が共に低い放任的養育タイプが一番多く、子育てに向き合っていないタイプが多くなる傾向がみえた。一方、平等主義の母親は応答性得点と統制得点が共に高い調和的養育タイプが一番多く、子どもの意図をくみ取りながら、善悪のしつけを積極的に行い、バランスのとれた子育てをするタイプが多い傾向が明らかとなった。

2. 親の性役割態度と子どもの社会的行動の関係

母親が平等主義の場合、伝統主義の母親に比べて子どもの引込み思案行動得点が有意に低く、不注意・多動行動得点および攻撃行動得点についても有意ではなかったが低い傾向にあった。父親の性役割態度による有意差は認められなかったことから、母親の性役割態度のみが幼児の社会的行動と関連があり、母親が平等主義にある方が、子どもの問題行動が少ない傾向にあった。このことは、母親のみ性役割態度により養育タイプの比率に有意差が生じたことと関連があると考えられ、平等主義の母親に調和的養育タイプが有意に多いことが、問題行動の少なさに影響していると推察される。

3. 親の性役割態度別、子どもの性別と養育態度の関係

親の性役割態度を伝統主義と平等主義に分けて、子どもの性別により親の養育態度得点を比較した結果、父親の性役割態度別で有意差はなかったが、母親の性役割態度別で父親の養育態度に男女で有意差が認められた。母親が平等主義の場合、女兒よりも男児をもつ父親の方が、親が良いと思う行動をしつけるような統制的態度は強い傾向にあった。しかし、母親が平等主義の場合、父親が報告した子どもの社会的行動に男女差は認められなかつ

たため、子どもの社会的行動の発達の違いによって父親が養育態度を区別しているとはいえない。本研究における背景として母親が平等主義の場合、伝統主義よりも母親の就労率が有意に高く、そのことが親の養育態度に関係している可能性が考えられる。母親が就労している場合、限られた時間の中で家事と子どもの世話を効率よく行う必要があり、必然的に父親も家族内の役割を担う機会が増え、男児に対しても家庭内の役割を担えるよう父親自ら積極的にしつけている様子が推察できる。

また、母親が伝統主義の場合、女兒より男児をもつ父親の方が子どもの意図をくみ取ろうとする応答的態度は強い傾向にあった。母親が伝統主義だと「女は女らしく」「男は男らしく」という志向をもつ傾向にあると考えられるため、男児に対する応答的なコミュニケーションは同性である父親が担っている様子が推察できる。

4. 性別による養育態度の違いと子どもの社会的行動の関係

父親が伝統主義の場合、平等主義の父親に比べて応答性得点が有意に低かったが、子どもの性別により親の養育態度に有意差はなく、子どもの社会的行動とも関連性が認められなかった。一方、母親の性役割態度が伝統主義の場合、平等主義の母親に比べて統制得点が有意に低く、放任的養育タイプが有意に多く、子どもの引込み思案行動得点が有意に高く、男児に対する父親の応答性得点が女兒に比べ有意に高いが、男児の協調スキル得点は女兒よりも有意に低かった。母親の性役割態度は、子どもの社会的行動にも影響することが明らかとなったが、子どもの性別により母親の養育態度に有意差はみられず、父親の養育態度に有意な男女差が認められた。したがって、母親の性役割態度が伝統主義だと男児に対する父親の応答的態度が強い傾向にあり、子どもの社会的行動の発達に負の影響を与える恐れがあるといえる。つまり、母親が性別役割分業を支持し、子どもに対して放任的な養育態度をとっている場合、母親は父親が男児に関わることを期待し、父親は男児に対して応答的に関わっている様子が窺える。しかし、子どもの協調スキル得点は女兒より男児の方が低い傾向にあった。父親の応答性得点が有意に高い男児の方が、心の安定が図れ、自己をコントロールすることにつながり、協調スキルの発達が促進されそうであるが、今回の結果では父親の応答性得点が有意に低い女兒の方が協調スキルは発達しているという結果であった。協調スキルの発達の男女差について、自己主張と自己抑制の得点は同年代の男児より女兒に高いことが先行研究で明らかとなっており^{8, 9)}、協調スキルには自己主張と自己抑制の双方の発達が不可欠であることから、本研究も同様の結果であったといえる。これらのことから、父親の応答的態度の強さでは補えない発達の男女差がここにあるのだと予測され、女兒は積極的に関わらなくても日常生活の中で自然と社会性を身につけている可能性が考えられる。

同様に、父親が平等主義の場合、伝統主義の父親に比べて応答性得点が有意に高かったが、親の養育態度に男女差はなく、子どもの社会的行動とも関連性が認められなかった。次に、母親の性役割態度が平等主義の場合、伝統主義の母親に比べて統制得点が有意に高く、調和的養育タイプが有意に多く、子どもの引っ込み思案行動得点が有意に低く、男児に対する父親の統制得点が女兒に比べて有意に高いが、子どもの社会的行動に男女差はなかった。母親の性役割態度は、子どもの社会的行動に影響することが明らかとなったが、子どもの性別による母親の養育態度に有意差はみられず、父親の養育態度に有意な男女差が認められた。したがって、母親の性役割態度が平等主義だと男児に対する父親の統制的態度が強くと、子どもの社会的行動の発達に正の影響を与える可能性があるといえる。つまり、母親の性役割態度が平等主義だと、父親は対等平等な態度を期待され、父親は子どもに対しても平等主義に育てようと、女兒に比べて協調性の部分で社会性の発達が遅れる傾向にある男児に対して統制的に関わっている様子が窺える。前述したとおり、男児は協調スキルの部分で同年代の女兒よりも発達が遅れる傾向にあることが明らかとなっており、母親が平等主義だと社会的行動に男女差がなくなることから、父親が積極的にしつける意志を持って子どもに関わる場合は、子どもの発達に正の影響があると考えられる。

V. 結論

親の性役割態度は幼児の社会的行動の発達にも影響を与えるのか検討した結果、父親の性役割態度が平等主義か伝統主義かによって、父親自身の養育態度には影響を及ぼしたが、子どもの社会的行動には影響しなかった。母親の性役割態度が平等主義か伝統主義かによって、母親自身の養育態度と子どもの社会的行動の発達に影響を与えており、母親が平等主義的性役割志向を内面化している家庭の場合、母親は統制的養育態度が強い傾向があり、調和的養育タイプが有意に多く、子どもの引っ込み思案行動得点が低い傾向にあった。両親の性役割態度について検討したが、母親の性役割態度のみが子どもの社会性の発達に影響する可能性があることが明らかとなった。

性役割態度と密接に関連する子どもの性別によって親の養育態度が異なるのか検討した結果、全体および父親の性役割態度が伝統主義か平等主義かによって、親の養育態度に男女差は認められなかった。母親が伝統主義の場合、男児への父親の応答的態度は有意に強かったが、統制的態度に有意差はなく、男児の方が女兒より協調スキル得点が有意に低い傾向にあった。母親が平等主義の場合、応答的態度に有意差はなかったが、男児への父親の統制的態度が有意に高く、子どもの社会的行動に有意な男女差は出なかった。つまり、男児に対して積極的にしつけようとする父親であれば、性別による養育態度の違いは、子どもの社会的行動の発達に対して正の影響を

及ぼす可能性があると考えられる。

母親の性役割態度は、母親自身の養育態度だけでなく、子どもの社会的行動にも直接的に影響しており、子どもの性別による父親の養育態度の違いにも間接的に影響している可能性が示唆され、母親の平等的性役割態度が強い方が、子どもの社会的行動の発達に正の影響を及ぼす可能性が示唆された。

これらのことから、幼児をもつ親の中でも特に母親に対する生涯教育を行い、平等主義的性役割志向をもてるように母親へ働きかけることが重要であり、子どもに対しても、保育園や幼稚園など家庭外において平等主義的な関係性を学べる多くの機会が与えられることが大切だと考えられる。

VI. 本研究の限界と課題

当初、幼児の社会的行動の真相を知るために、集団生活で子どもの社会的行動を観察することができる保育者にも同様の調査を実施する研究デザインを考えていたが、今回、調査協力が得られたのは、常々接していない父親と、殆ど家庭でのことしか観察する機会のない母親のみであった。家庭での行動と集団での行動に差が生じる可能性があり、保育者から調査協力を得られることでさらなる真相が捉えられると考えられる。

また、分析対象の約6割が専業主婦家庭であり、実態に近い結果が出せたか疑問が残る。今後、母親が働く家庭のデータを増やして再検討する必要がある。

本研究にて、母親の伝統的性役割態度は自身の養育態度だけでなく、子どもの社会的行動に対しても負の影響を与えることが分かったが、既存の尺度を使った量的調査は表面的な結果であり実態を知るには限界がある。今後は、面接調査を行い母親の性役割態度がどのように養育態度を規定しているのか、その実態を明らかにする必要がある。

謝辞

本研究の趣旨を理解し、ご協力いただきました子ども課長様、公立保育所3か所の保育所長様、私立幼稚園6か所の園長先生および保育士・幼稚園教諭の皆様にご協力くださいました保護者の皆様のおかげであり、心より感謝申し上げます。

文 献

- 1) 内閣府：男女共同参画社会に関する世論調査（2007）
- 2) 玉里八重子、岡山久代：0～3歳児をもつ母親の養育意識・行動に対する父親及び母親の性役割態度の影響。滋賀医科大学看護学ジャーナル，4(1)，40-44（2006）
- 3) 田中亨胤、佐藤和順：幼児のしつけ形成過程にみるジェンダー再生産の装置－保護者を対象にした調査をもとに－。兵庫教育大学研究紀要，22，1-9（2002）
- 4) 中道圭人、中澤 潤：父親・母親の養育態度と幼児の攻撃行動との関連。千葉大学教育学部研究紀要，51，173-179

- (2003)
- 5) Diana F.N., Gonzales A. and Manuel Barrera Jr., Larry E. Dumka: Interparental Relations, Maternal Employment, and Fathering in Mexican American Families. *Journal of Marriage and Family*, **69**, 26-39 (2007)
 - 6) 中台佐喜子, 金山元春, 前田健一: 母親の養育態度が幼児の問題行動に及ぼす影響—養育態度→家庭における問題行動→園における問題行動というプロセスの検討—. *広島大学心理学研究*, **4**, 151-157 (2004)
 - 7) 中台佐喜子, 金山元春: 母親の養育態度が幼児の社会的スキルに及ぼす影響. *家庭教育研究所紀要*, **26**, 61-66 (2004)
 - 8) 中台佐喜子, 金山元春: 幼児の社会的スキルと孤独感. *カウンセリング研究*, **35**, 237-245 (2002)
 - 9) 中台佐喜子, 金山元春, 前田健一: 幼児の仲間集団における人気度と社会的スキル—同性仲間と異性仲間からの評価—. *広島大学心理学研究*, **2**, 151-157 (2002)
 - 10) 鈴木淳子: 平等主義的性役割態度スケール短縮版 (SESRA-S) の作成. *心理学研究*, **65**, 34-41 (1994)
 - 11) 鈴木淳子: フェミニズム・スケールの作成と信頼性・妥当性の検討. *社会心理学研究*, **2**, 45-54 (1987)
 - 12) 鈴木淳子: 平等主義的性役割態度: SESRA (英語版) の信頼性と妥当性の検討および日米女性の比較. *社会心理学研究*, **6**, 80-87 (1991)
 - 13) 民主教育研究所: *Women & Men in Japan 日本のジェンダー統計*. No.3, p16. 図表 3-1, 図表 3-2 (2008)